

## ビジョン連携推進会議第二分科会 第2回 開催概要

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 日 時 | 平成 27 年 10 月 27 日(火)   |
| テーマ | 多摩地域における交流人口を増やす取組について |

### 議事要旨

#### ○ 立川市の取組

- ・ 「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を将来像と定め、交流に力を入れて取り組んでいる。
- ・ J R 立川駅は乗降客数が中央線沿線では新宿に次いで2番目であり、かつ、昼夜間人口比率は多摩地域で1位と交流人口が多い地域である。
- ・ 市内では、イルミネーション、花火大会、箱根駅伝の予選会など国営昭和記念公園でのイベントを中心に、地域の関係団体と横断的に組織を編成している。
- ・ 現在、立川駅周辺と多摩モノレール下の道路（都市軸）周辺に企業を誘致し、賑わいを創出している。今後は、東京オリンピック・パラリンピックなどを見据え、回遊性を確保することが課題。

#### ○ 調布市の取組

- ・ 京王線地下化に連動した駅前広場等の整備や周辺の道路の整備など、中心市街地が大きく変貌していくことに加え、大型複合商業施設の開業やラグビーW杯、オリンピック・パラリンピックの開催など、魅力発信の機会が増加している。この機会を捉え、産業・観光以外にも、子育てや住みやすさなどを含め、「新生・調布」の魅力を市内外に発信していく。
- ・ 調布の多様な魅力を集めた観光情報誌「調布 BRAVO!」などを通じた魅力の発信を行っている。
- ・ 調布市に「住んで良かった」「来て良かった」と思える、調布ならではの、多様な魅力を実感していただけるよう、今後も、魅力の発信を進めていく。

#### ○ 西東京市の取組

- ・ 西東京市は、目立った観光資源や地域資源がないものの、住民は静かなまちというところに魅力を感じている傾向がある。市の将来的な展望を考えると、交流人口を増やしていくことや市民が気づいていない地域の魅力をPRすることも必要と考えている。
- ・ 今年度、ラッピングトレインの運行、「まち歩き観光」の推進、観光アプリの作成を行うなど、市としては、ほぼ初めて観光視点での事業に取り組んだ。
- ・ 今後は、まちの魅力を向上し、市外へアピールして交流人口を増やすことが課題である。しかしながら、観光のまちを目指すのではなく、静かな住宅都市として進んでいくことが、市民合意が得られやすいと考えている。

#### ○ 武蔵野商工会議所の取組

- ・ 食・特産品などの地域資源を生かした活性化事業として、毎年「Musashino ごちそうフェスタ」を実施。

- ・ 市内産の野菜の安全性や野菜栽培の楽しさを市民に理解してもらい、食に関する意識向上という趣旨で市役所の健康部署と連携。
- ・ 市域を超える地域活性化事業として、昨年度は武蔵村山市と広域連携の着地型観光事業「武蔵野 Oh! うどん街道」という多摩地域に残る小麦文化である武蔵野うどんを切り口に、それぞれの地域の店と連携した交流事業を実施。今年度は、中央線沿線の連携として、三鷹市、三鷹商工会と「WOW アニメーション 和食 in 中央ライン フェス&ウォーク」を開催予定。主に訪日・在日外国人を対象として、和食と地域の観光資源を体験することができる。
- ・ 今後の展望として、地域の経済団体も、子育て支援・子育て世帯への応援や高齢者への支援など、地域住民の生活支援につながるような産業展開をしていかなければならない。

### ○ 東京都商工会連合会の取組

- ・ 東京都商工会連合会は、多摩地域の 21 の商工会を支援しており、各商工会では交流人口を増やすため、様々なイベント等を開催している。
- ・ イベントは単発的な効果になりがちだが、様々な集客を行うことで、合計で年間約 90 回・約 330 万人を集客し、経済効果を出している。
- ・ 今後の課題として、多摩地域の交流人口を増やすためには、空港が遠いなどの理由からインバウンドが弱いため、交通の整備が必要。また、忘れられている地域資源に再度ストーリーをつけていくことや、多摩地域には宿泊施設が少ないため、古民家を活用した民泊などの検討が有効。

### ○意見交換

- ・ 多摩地域には、何が売りなのかというのが決めにくいという、住宅都市、都市部特有の問題がある。一方で、沿線で都市がつながっているという利点があり、そのつながった地域一帯で、「もてるまち」としてまちづくりを進めることがよいのではないか。都市部は課題から入るよりも、持っている魅力をどう生かしていくか、ということから課題を解決していくほうが向いている。
- ・ 多摩地域は緑が多く、非常に居住環境が良く、住宅地としての魅力もある。観光も大事だが、住むまちとしての位置づけも非常に重要であり、「住んでよし、来てよしの多摩」というのも、一つの戦略である。来訪者だけでなく在住者にも、地域を誇り、好きになってもらうことが、来訪者を呼ぶことにつながっていく。
- ・ 一過性で終わらない、持続的な地域の活性化や交流人口を増やしていく方策が必要である。そのためには、多摩地域で行われている様々な取組や地域資源を発信していくことが必要。
- ・ 既存の資源をいかに活用し、新しい資源を発掘し、地域外からの注目を集めるような仕掛けを構築するということが大事。そのためには、広域連携や行政と民間の連携、同時に地元を巻き込み、多様な主体との連携が必要なのではないか。
- ・ 広域連携は、できるところから模索していけばよい。例えば、コンテンツ、沿線、事業（イベント、広報）の一部など、どこなら一緒にできるかを模索していくべき。大上段に構えて何かやろうというのではなく、まず集まって、できることがあったらやってみようと、分野に関わらず、意見交換を行うことから始めることが必要。